報告

第 14 回ファジィシステムシンポジウム報告

磯本 征雄*

東海支部 2 度目の開催

開催地となった岐阜大学の先生方をはじめ、東海支部会員を中心とした実行委員会メンバーによる無私のご尽力で、第 14 回ファジィシステムシンポジウムを無事に終えることができました。東海支部でのファジィシステムシンポジウム開催は、今回で 2 回目になります。幸いにも、東海支部は有能な会員に恵まれており、微力な実行委員長の下でもシンポジウムを立派にやり上げたといえましょう。

さて、平成 8 年 10 月頃に事業委員会より要請を受け、平成 10 年 6 月 3 日～5 日のシンポジウムを無事に終えるまで、1 年半の歳月が過ぎました。花火の打ち上げと同じで、最後に花開く瞬間は 3 日間ですが、そこに至る準備には、実行委員のたゆまない陰の力が注がれました。

さて、シンポジウム当日ですが、第 1 日目の午前中は少し天気がぐずつきしましたが、幸いにもその後の開催期間中はよい天候に恵まれ、気持ちのよい日が続きました。会場は、鶯飼いで有名な長良川のほとりにあり、頭上に斉藤道三や織田信長ゆかり岐阜城のある金華山を仰ぐこともできます。会場の中も、高い天井にゆったりとした雰囲気が漂い、和やかな中に研究発表を持てたものと思います。

会場選び

平成 8 年 10 月に、東海支部で第 14 回 FSS の実行委員会を結成しました。実行委員会の最初の仕事は、開催会場を探すことから始まりました。東海

地区の大学を調べましたが、6 月の大学は通常の授業が行われており、発表会場の確保は容易ではありません。もう一つ、東海地区での FSS 開催が 2 回目であることから、前回とは趣の違う雰囲気の会場にしたいとの思いも実行委員会にはありました。こうした考えの下で、研究発表の会場確保が容易で、しかも参加者に好評な会場を探すのは一大作業でした。

FSS 開催会場として選べる施設は限定されます。全国の会員が一堂に会して 3 日間を有意義に過ごすには、それなりの施設が必要です。折角の機会ですから、旅行の楽しみを味わえるとよいでしょう。参加された方々には容易に気づいたと思いますが、岐阜市は鶯飼いと歴史の町であり、3 日間の旅先としては申し分ない場所であったと思います。会場となった長良川国際会議場は、岐阜市のコンベンション施設であり、借り上げることさえ決まれば、利用の方法には問題はないと判断しました。

企画のための長い準備期間

FSS も第 14 回を迎え、シンポジウムの形態もほぼ定着してきたように思われます。第 12 回目の早稲田大学、第 13 回目の富山大学の開催事例を参考に、開催期日までにすべき事柄を列举して、作業日程を決めることから始まりました。

一般講演や企画セッションの募集は、過去の実情を見ると、毎回それぞれの事情に合わせて異なる考えで企画されており、第 14 回 FSS のプログラム委員会もかなり苦労をしました。第 12 回の「会員以外の講演者は懇親会無料招待」や、第 13 回の「多数の参加者の出席を促す企画セッション」を参考にしましたが、第 14 回 FSS では研究会幹事に企画募集をするという方法となりました。

* Yukuo ISOMOTO
名古屋市立大学自然科学研究教育センター
第 14 回ファジィシステムシンポジウム実行委員長

特別講演(伊藤正男先生)の講演

一般講演募集で話題になったのは、締め切り期限を過ぎてからの講演申し込みや、講演原稿の期限内未着でした。6月2日までに講演予稿集の印刷を終えるには、1ヶ月前には印刷屋に原稿を手渡す準備を完了させなければなりません。過去の状況を見ると、この点には一抹の不安がありました。幸いにも、致命的な問題を起こすことなく講演予稿集を印刷できました。

シンポジウム企画の中でも大きな課題は、特別講演・招待講演のテーマ、講演者の選定・依頼でした。理化学研究所長の伊藤正男先生に特別講演として「脳のようなコンピュータとは?」という演題でお願いしました。名古屋都市センター長の加藤晃先生に招待講演で「中部新国際空港の計画について」という演題でお願いしました。今思えば、こうした演題と講師の決定には、実行委員諸先生方の熱意が不可欠でありました。なお、加藤先生におかれましては、5月末に急病で倒れられ、招待講演の講演者を中部開発センター副会長の佐藤充弘氏に急遽交代して頂きました。佐藤氏には、突然のお願いを快くお引き受け頂きましたことを感謝するとともに、加藤先生には早い回復を祈る次第であります。講演をお引き受け頂きました先生方には、感謝致します。

シンポジウムの運営

実行委員会にとって、シンポジウム運営費は重要な課題です。大幅な収益を上げる必要はないが、赤字になってはいけません。この制約は、収支決算の幅が限定されており、現実にはかなり難しいこと

です。企業展示や広告の募集を多数の企業に郵送しましたが、嘗てからお馴染みの2社以外は容易には応じてくれませんでした。前回までのFSS実行委員長からは、「企業のシンポジウム支援は厳しい」と聞いてはいましたが、まさにその通りになりました。折しも、テレビなどの報道では、経済界の不景気が伝えられ、資金面での不安が煽られておりました。

今回は、会場を長良川国際会議場を選び、懇親会をルネッサンスホテルにしましたが、大学の施設を使った従来のシンポジウムに比較して、支出が割高になると当初より予想されておりました。これも、参加者本意に充実したシンポジウムとしては当然のこととして、企画を進めました。幸い、中部電力と岐阜市コンベンションビューローから協賛助成金を頂けるとの連絡が早い時期に入り少しホッとしました。

FSSを円滑に運営するために、名古屋大学の内川嘉樹教授を委員長とする組織委員会を作ったことが幸いし、また長良川国際会議場のご厚意もあって、収支決算はまずまずの結果となりました。ご協力頂いた皆様には感謝いたしております。

当日の会場風景

前日の6月2日夕刻、実行委員とアルバイトの学生で長良川国際会議場に集合し、総合受付、一般講演会場、特別・招待講演会場等々の準備をして、翌日からの仕事分担を確認しました。その夜は、こ

一般講演会場風景

れで準備は万端との思いで軽い緊張を覚えました。

さて、実行委員長として気になるのは、参加者と円滑な会場運営です。結果は、講演発表件数 288 件、参加者数 400 余名で、実行委員会の予測とほぼ一致した数でした。一般講演会場の広さは、収容人数が 100 人～24 人と大きさがまちまちでした。そのため、セッション毎に参加者数を推測し、各々に適切な部屋の割り当てをしなければなりません。プログラム委員会の皆さんが十分に検討を重ねてきたことが幸いして、混乱することもなく円滑に進行しました。

第 2 日目の伊藤正男氏による特別講演は、1800 人収容の大ホールで行い、多数の出席者で盛況でした。午後の招待講演は、時間帯の関係もあって、出席者が少し減りましたが、内容は好評でした。いずれも、興味深い講演であり、最後に会場からは所定の時間を超える程の多数の質問が出ました。

第 2 日目夕刻の懇親会は、長良川国際会議場に隣接するルネッサンスホテルで開かれました。講演会場の隣りなので移動時間もなく、パーティーが開かれるまでに流れる待ち時間も、出席者のゆったりとした談笑に使われ、会場の雰囲気盛り上げるのに役立ったように思われます。

第 3 日もシンポジウム進行は順調に進みました。実行委員やアルバイトの人達には、まだまだ気を抜けない段階ですが、主要な行事を終えて山場を越し、一部の参加者は広い会場のロビーでゆったりと過ごしているようでした。参加者からは、天井の高いゆったりした会場は、シンポジウムの雰囲気として誠に望ましいとの好評な言葉をうかが

っております。

シンポジウムを終えて

第 14 回ファジィシステムシンポジウムを東海支部で開催することが決まってから終了まで、ほぼ 1 年半になります。振り返ってみると、長いようで短い歳月であった様に思えます。シンポジウムを無事に終え、微力な実行委員長ながら次回の関西支部にバトンタッチが出来たことを報告させて頂きます。実行委員の方々のご尽力の大きかったことを申し添えて、ほんの一部分ではありますが、実行委員長から見た第 14 回ファジィシステムシンポジウムの報告とさせて頂きます。

シンポジウム会場のロビー風景

[問い合わせ先]

〒 467-0802

名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑 1

名古屋市立大学 自然科学研究教育センター

磯本 征雄

TEL : 052-872-5790

FAX : 052-872-5781

E-mail : yisomoto@cc.nagoya-cu.ac.jp